

住み慣れた地域で 安心して暮らすためには ②

講師 酒井 保さん

(グループホームアイリーフ五日市の施設長・元広島県廿日市社協職員)

とき 2010年 11月7日(日) 2時～

ところ 岡山県男女共同参画センター「ウイズセンター」

(岡山市北区南方 2-13-1 「きらめきプラザ」 6F)

主催 人権・福祉講座 2010 実行委員会

後援 岡山県・岡山市・倉敷市

資料代 500円

超高齢社会への急速な進行の中で、生じている多くの問題に悩み苦闘しています。

「住み慣れた地域で安心して暮らすためには①」では、講師の掘川涼子さんが、①自分の立場で何ができるか、②協力するなら誰と、どこと、ということを念頭におきながら聞いてほしいと強調。立ちはだかる3つの壁(意識の壁・情報の壁・制度サービスの壁)により、「支援に必要な人の発見が遅れ、問題が長期化、複雑化、重度化してしまい、児童虐待・無理心中・自殺・介護殺人・高齢者虐待等々、深刻な事態がうみだされている状況が話されました。それに対して、「自助力」「公助力」「共助力」の3つの力を合わせて、壁を壊すための多くの試みについて、小地域福祉活動の事例等を紹介しながら、報告されました。



第2回目の講師は、グループホームアイリーフ五日市の施設長で、元広島県廿日市社協職員でもあった酒井 保さんです。

歳をとっても、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らすために、私たちに求められていることについて、長年の豊富な経験をふまえ、お話いただけたと思います。

ご期待ください。ご参加をお願いします。